

集团的行動に関する基礎的研究

廣橋 義敬¹、金原 勇²、齊藤 富美枝³

田島 行夫¹、高山 弘⁴、松野 義晴⁵

¹千葉大学教育学部、²武蔵野体育研究所、³千葉市立生浜中学校、
⁴敬愛大学、⁵千葉大学大学院

Preliminary study of the group behavior

Gikei HIROHASHI, Isamu KINPARA, Fumie SAITOH, Yukio TAJIMA,
Hiroshi TAKAYAMA and Yoshiharu MATSUNO

1. 研究目的

現代社会における建造物の巨大化、立体化、複雑化、生産手段及び工程の複雑化及びスピード化、巨大イベントの日常化、通勤手段の多様化と通勤距離の増大、旅行ブーム、大衆スポーツブームなどに伴って、災害のみでなく日常的に集团的及び群集的な場における行動の安全性、有効性を体育を含む各種の方法を活用して意図的に高めることが重要になってきている。従って、体育運動の果たし得る重要な役割の一つはここにあると考えている。集团的行動の場が益々多くなっていく現代社会では、このような役割を果たすことができる体育運動を確立することは、全ての人に期待される社会性・道徳性の育成にも大きく寄与すると考えられる。

これまで「集団行動」には、その内容として集団で行動する場合に役立つ集合、整列、列の増減などの基本的行動様式に関することがあげられてきた。しかし、このような限られた内容のみでは、先にも述べた役割を十分果たすことはできないと

考えられる。

本研究の目的は、現代社会に要求される集团的行動に役立つ体育運動のとらえ方、その開発方法などを追求することにある。

2. 研究方法

われわれは、これまで長年にわたって人間の生活・生存に欠くことのできない役割を果たすことのできる体育を発想の意図的転換を図るようにして図1に示すような研究チャートによって追求してきた。表1は、われわれの体育・体育運動のとらえ方・在り方の原点を示したものになっている。また、表2に示すようにわれわれは「体育」を「心育」に対応する人間育成における車の両輪にすべき現象として位置づけ、「全ての身体的なことを通して、個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の主に身体的精神的育成を図る、生活全体を一面的に設計・統御する現象」としてとらえている。

われわれはこのような体育の具体化の一環とし

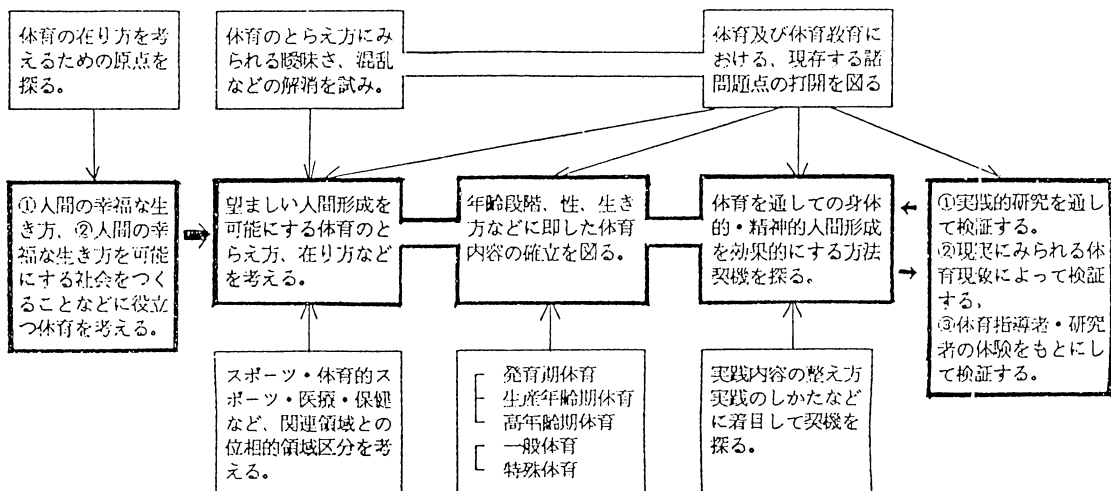


図1 体育及び体育的スポーツの改善と創造をめざす演繹・帰納法的研究チャート

表1 体育・体育運動（体育的スポーツ）のとりえ方・在り方を考える原点

- (1) とりえ方の原点
 - ① 体……精神的・身体的存在としての人間に対する
身体的・精神的存在としての人間 ※1
(こころに対するからだ)
 - ② 育……教育の育でなく育成の育
(教えることではなく育てること) ※2
 - (2) 在り方の原点
 - ① 個人的・社会的にみて望ましい平和な生き方
 - ② 個人的・社会的にみて望ましい生きがいがある生き方 ※3
- ※1 身体と精神との区別は操作的に行う。
 ※2 身体的、精神的、物的などの災害の予防・克服が図られている生き方
 ※3 生産、人間関係、趣味などに関する生きがいがある生き方

表2 体育・心育のとりえ方[※]

	体育のとりえ方	心育のとりえ方
目的	個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の身体的・精神的育成	個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の精神的・身体的育成
手段	主に身体的なことへの全て	主に精神的なことへの全て
現象	生活全体にわたる主に身体面からの設計・統御現象	生活全体にわたる主に精神面からの設計・統御現象

※ 体育（心育）は、主に全ての身体的なこと（精神的なこと）を通して、個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の身体的・精神的育成（精神的・身体的育成）を意図的に図る、生活全体を一面的に設計・統御する現象である。

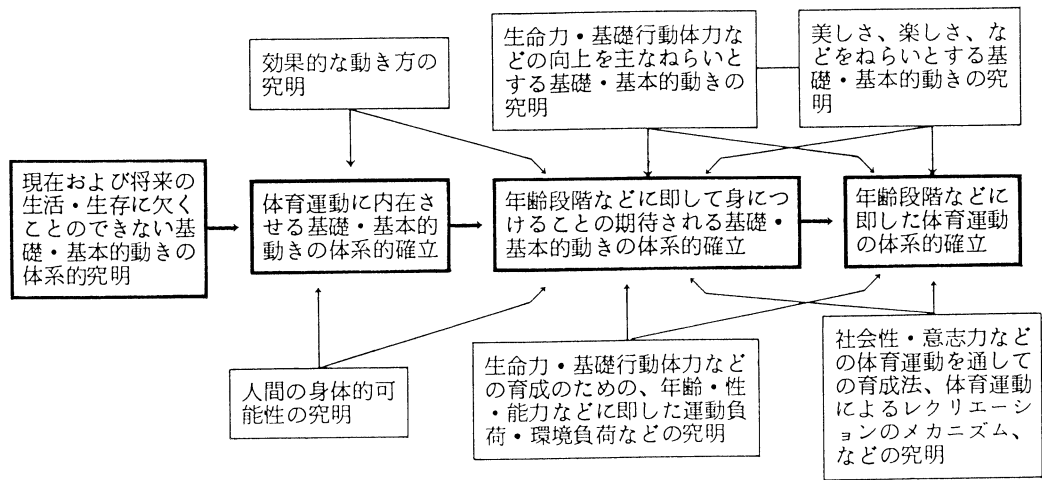


図2 体育運動体系的確立のための研究チャート

て、生活・生存に欠くことのできない役割を果たすことのできる体育運動を図2に示す研究チャートによって追求してきた。本研究はその一つでもある。本研究も基本的にはこの研究チャートにそってすすめた。

われわれの体育のとらえ方・在り方からは、図2の a・b・cに示す基礎・基本的動き、特に a「現在及び将来の生活・生存に欠くことのできない基礎・基本的動き」を効果的な動き方を明ら

かにした上で、組織的に内在させた体育運動を作ることが特に重要である。このことは、本研究においても集団的行動に関する生活・生存に欠くことのできないような基礎・基本的動きは何かを探ることが重要であることを示している。表3は体育運動に組織的に内在させることの中で、基礎・基本的なことの位置づけ方を示すために取り上げてみた。

表3 体育運動（体育的スポーツ）に内在させる基礎・基本的なことのとりえ方・在り方
— 基礎・基本的なことの一群としての基礎・基本的な動きの位置づけ —

階層段階	階層段階に即した基本的柱	
究極的実践的階層	① 諸基本的価値の追求・実現が体育運動によって図られている生活	① 平和な生きがいのある生き方が体育運動によって図られている生活
	② 諸基本的価値の追求・実現能力の体育運動による開発	② 平和な生きがいのある生き方のできる能力の体育運動による開発
直接的実践的階層	① 一般体育運動	① 諸体育運動の行い方、それぞれの生活への取り入れ方（各種体育運動） ② 諸体育運動の全体としての生活への取り入れ方（体育運動生活）
	② 障害者体育運動	
	③ 共通体育運動	
基礎的階層	① 発育期基礎・基本的なこと	① 基礎・基本的な動き、動きづくりの行い方などに関すること ② 体力の向上に役立つ運動負荷、体力づくりのすすめ方などに関すること ③ 体育運動によるレクリエーション及び積極的の休息に関すること ④ 体育運動による精神的人間育成（精神的な能力、態度の育成）に関すること ⑤ 災害の予防・克服能力の体育運動的方法による開発に関すること ⑥ 生産的能力の体育運動的方法による開発に関すること
	② 生産年齢期基礎・基本的なこと	
	③ 高齢期基礎・基本的なこと	
	④ 障害者基礎・基本的なこと	

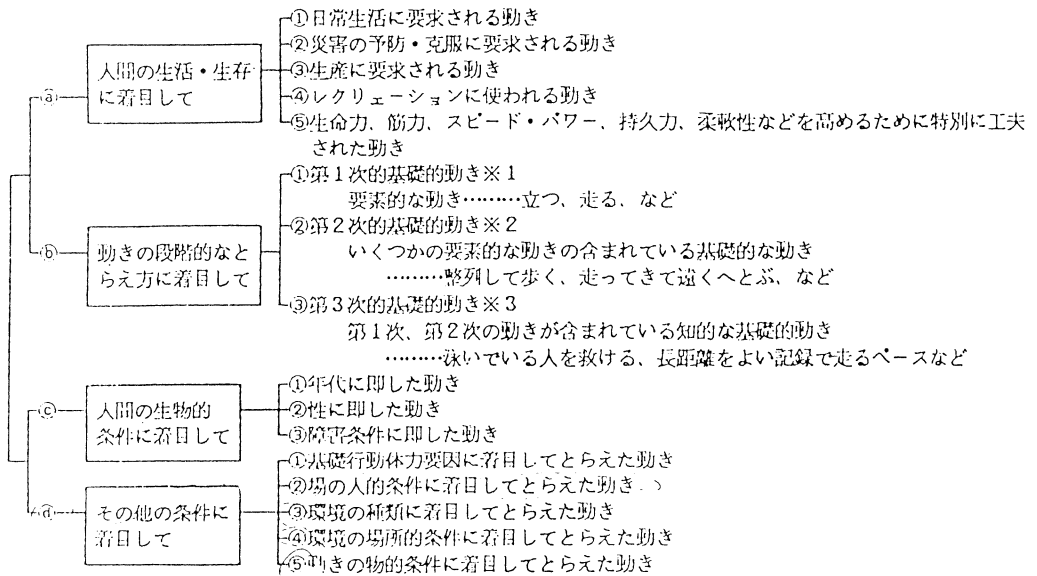
3. 研究結果と考察

表4は、われわれの体育のとらえ方をもとにした基礎・基本的動きのとらえ方をまとめたものである。集団的動きは、主に①-②に示す場の人的条件に着目してとらえられる動きである。しかし、これらの集団的動は、④の人間の生活・生存に着目して日常生活、災害の予防・克服、生産、レクリエーションなどに含まれる動きについて、

更には①-③・④・⑤などの環境の種類、環境の場の条件などと考えてとらえる必要があると考えられる。

表5は、児童・生徒のために体育運動化して指導することが望ましいと考えられる各種集団的行動を示したものになっている。ここでは、諸集団的行動を大きく固定的集団行動と群集的集団行動とに分けて示してみた。

表4 人間の生活・生存に要求される基礎・基本的動きのとらえ方



※1、※2目動化することの望まれる動き
※3目動化することの望まれる動きの知恵

表5 体育運動化することの望ましい各種集団的行動

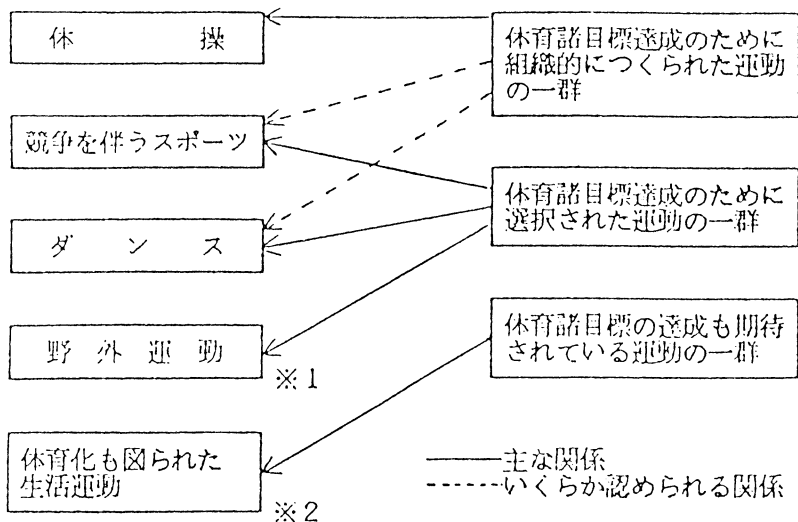
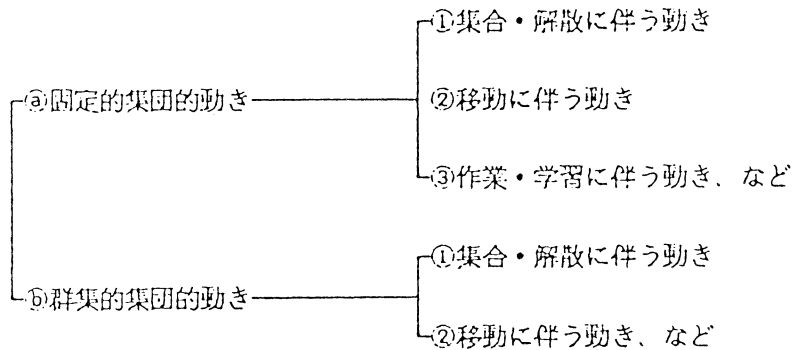
固定的集団行動		群集的集団行動	
1	①各種の儀式に伴うこと ②各種の集団的イベント実践に伴うこと	1	①学校内での自由な移動に伴うこと ②学校外での各種の雑踏の場での移動に伴うこと
2	③学校内での体育・スポーツ以外の学習、作業などに伴うこと ④体育の授業、運動部の練習に伴うこと	2	③乗り物の運転に伴うこと ④各種の乗り物の乗降、車内の行動などに伴うこと
3	⑤登下校に伴うこと ⑥旅行・見学に伴うこと	3	⑤各種の催し物などの見物に伴うこと
4	⑦学校での非常時に伴うこと	4	⑥学校外での非常時に伴うこと

表6は、各種集団的行動に含まれている基礎的・基本的動きが具体的にとらえられるように動きの種類を試みたものである。

本研究では、固定的集団行動としての表5の4-⑦の学校での非常時に伴う動き、群集的集団行動の1-②の学校外での雑踏の場における移動に伴

う動き、などにおける合理的動きなどを究明しようとして実験的に取り上げてきた。また、これらの研究は、含まれる基礎的動きに着目すると、表6におけるa-②、b-②に関する合理的動きを究明しようとするものになる。

表6 各種集団的行動に含まれている基礎的・基本的動き



※1 都会運動としての歩行者天国散歩、公園歩き、催物見物などを含む。
 ※2 生活中的諸姿勢を含む。

図3 体育運動の体系的なとらえ方

—主に、一般に広く用いられている運動の分類に着目して—

体育運動化の図られた集団行動は図3に示すような体育運動の分類からすると、体操及び体育化も図られた生活運動のそれぞれの一部になる体育運動あるいは体育的でもある行動として位置づけることになる。表7は、われわれの体育運動のとりえ方によって体操の理論体系を示したものである。体育運動化された集団行動は、主に体操の中の1-(1)-①の生活・生存のための基礎的動きづくりの体操として、その一部は1-(1)-②の美し

さをねらいとする体操として確立していく必要がある。なお、これらの体操は遊戯化、スポーツ化も考えられるし、また体育化も図られた生活運動の一部として用いられると考えられる。

表8は、集団的行動の体育運動化に関するわれわれの研究課題をまとめて示したものになっている。これらの研究を現在すすめているが、その研究をまとめて結論的示唆とする。

表7 体操の理論体系

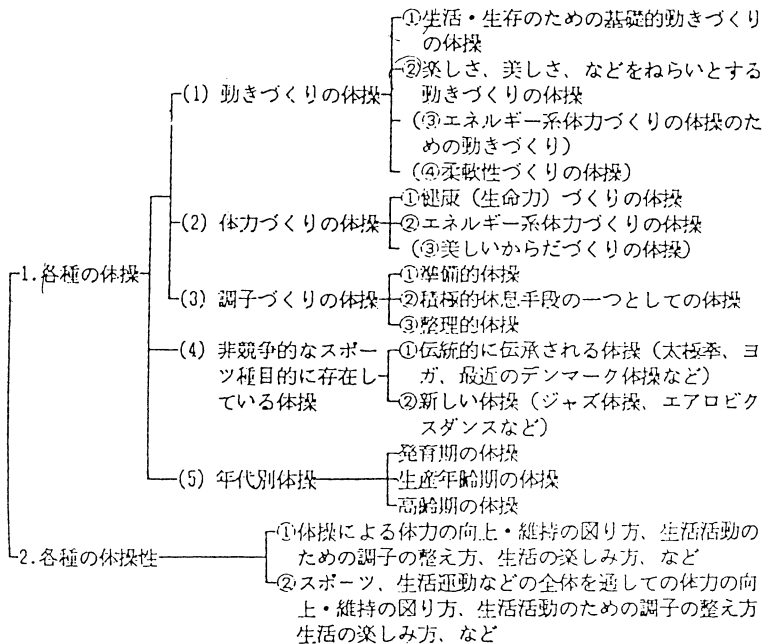


表8 集団的行動の体育運動化に関する研究
- われわれのやってきた研究について -

- 1 人間の移動における人と人との間隔（距離の重要性）に関する研究
 - (1) 教室から昇降口までの移動に移動について
 - (2) 将棋倒しの予防・克服について
 - (3) 移動中の将棋倒しについて
- 2 群衆の中の移動（クロス）技術に関する研究
 - (1) 群衆の中のクロス移動について
 - (2) 階段移動について
- 3 集合技術に関する研究
 - (1) 集合遊びについて

4. まとめ

集団行動に関する基礎的研究として、今日形骸化した指導が主流になっている集団行動の指導の活性化をめざして研究に取り組んでいるが、この研究の成果を踏まえて、次のような結論的な示唆を引き出すことが許されよう。

1. 現行の体育運動には、生活・生存に役立つ体育運動の体系的な創造という視点が欠けていること。
2. 現行の体育運動には、現代社会における集団的行動の場における安全と能率性という立場からの配慮が全くなされていないこと。

今後さらに研究の視点を拡大し実践指導に直結

した集団行動の指導内容を体系的に確立する所存である。

諸学究各位の厳しい御指導を期待する。

参考文献

1. 文部省：高等学校学習指導要領解説保健体育編 昭和54年5月
2. 文部省：中学校指導書 保健体育編 昭和53年5月
3. 文部省：中学校指導書 体育編 昭和52年5月
4. 文部省：体育（保健体育）科における集団行動指導の手引 昭和62年3月